

# 平成 18 年度産業技術連携推進会議物質工学部会 第 26 回デザイン分科会

## 本会議議事録

日時：平成 18 年 7 月 6 日（木） 13:00 ～ 17:00

場所：ホテルセントパレス倉吉（鳥取県倉吉市上井町 1-9-2）

### 1. 開会

（定刻開催）

うか一つ夕方までよろしくお願ひします。はなはだ簡単ですが、これで挨拶とさせていただきます。

### 2. 挨拶

#### ・志甫分科会長

みなさん、こんにちは。本年度、来年度の 2 年間、私が分科会長を勤めさせていただくこととなりましたのでよろしくお願ひします。開催県の鳥取県には多大なお世話をいただいております。本当にありがとうございます。それから、非常に多くの方がご参加されているわけですが、産総研から久場様。産デ振から田中様、HQL からは畠中様。参加していただきありがとうございます。

私は、昨日から倉吉に前泊しておまして、今日は午前中に時間がありましたので、明日おそらく見学を行う予定の旧市街を散策いたしました。とてもしっとりとした趣のある町を拝見させていただきました。以前、15 年くらい前に一度訪れて、非常に良い町だなと思っておりました。昨日から今日にかけて竹島の問題とかミサイルの問題とか非常に今日本海が賑やかとなっておりますけれども、町は非常に穏やかで良いところだなと。こういうところを選んでいただいて事務局さん本当にありがとうございます。

後でご説明いたしますが、今日は主に 2 つ議論していただきたいことがあります。まず、前半は分散研究会の方では、従来のいわゆる研究会の流れは取りますが、事務局の方である程度色々なアンケートとか意見集約をしていただいております。今後のデザインセッションのあり方ですとか、国の方でも進められております、部会とか分科会の活性化方策など、そういったことに少し集中的に前半議論していただければと思っています。

そうした前半の議論を肥やしというかベースに、後半は全体会議ということで、いわゆるデザイン分科会の今後の運営の仕方について少し、皆様と討議をさせていただければと思っております。

非常に限られた時間ですので、なかなか今日一日で全てのことがクリアーになるとは思っておりませんが、活性化のための再編ということでございますので、これを私ども良いモチベーションとしまして、大いに今日は議論をさせていただければと思っております。ど

#### ・中山鳥取県産業開発課長

こんにちは、ようこそ鳥取へいらっしゃいました。会議の開催に当たり、一言ご挨拶させていただきます。

<鳥取県の商工労働施策について説明：略>

どうもありがとうございました。

<資料の確認>

### 3. 議長選出

#### ・事務局

（鳥取県商工労働部産業技術センター 清水氏）

慣例により開催県より議長を選出するという事になっておりますので、この度は鳥取県で開催いたしますので、鳥取県商工労働部産業技術センター長の足森が議長を務めてさせていただきますのでよろしくお願ひします。

#### ・議長（鳥取県商工労働部産業技術センター 足森氏）

初めまして。鳥取県産業技術センターのセンター長をしております、足森でございます。只今、議長に選出されましたので、この後、議事よろしくお願ひします。では座って、議事進行させていただきます。

### 4. 議事

#### 1) 連絡事項

##### ・議長

この度のデザイン分科会でありますけれども、先ほど分科会長さんの方からもありましたが、本日は、産技連の組織改編でありますとか、分科会のあり方など、こういった様々な課題が山積しているということをやと伺っておりますけれども、本日はですね、私自身議長という職責は不慣れでありますので、どこまで皆様に対応できるかどうかあまり自信はありませんが、最後まで皆様のご協力を得まして進めていきたいと思っております。

それでは早速ではございますけれども、議事に沿って進めさせていただきたいと思っております。まずはですね、レジメに従いまして、経済産業省からの指示連絡事項ということで、今日は産業技術総合研究所の久場さんがお見えになっておりますので、久場さんの方からよろしく願いいたします。

#### ・産総研久場氏

産総研の久場です。産技連の組織の見直しについてご説明差し上げるんですけれども、資料を皆様のお手元に配っていないのは、まだスケジュール的に内容がまだ検討中ということなので、室長からちゃんと資料を見せるのは良いけれども、配るのはちょっと待ってくれと言われてますので、すみません。遠くて見にくいでしょうがパワーポイントでやらさせていただきます。

組織改編ということでやらさせていただきます。見直しの背景というのが色々あるんですけれども、平成13年に工技連から産技連に変わって、そのときに工業技術院からうちの研究所は産総研となりました。そのときには、産技連に名称は変わったのですが、工技連の伝統ある部会・分科会構成をそのまま引き継いで産技連という形になりました。

産技連の規約に書いてありますが、3年ごとに見直しという話がありまして、16年くらいから見直しに入ったんですけれども、16年はなかなか意見がまとまらずに17年になって始めたわけですが、17年に産技連の事務局というのは、産総研のうちの地域連携室というところと、それから経済産業省の地域技術課、それから中小企業庁の技術課、経済産業省の産業技術課というのがありまして、その3つプラスうちという4つ事務局がありまして、その事務局間の中で意見調整している間にどんどん時間が経ってしまっていて、肝心要の公設試験さんのご意見を聞くのが、17年の8月ごろに行ったアンケートだけという形で、年が17年明けまして、18年になりましてあわてて公設試験さんにご説明したんですけれども、十分にご説明しきれないうちに3月3日の総会。総会できちんと提案することは、提案して可決することは非常に難しい状況となりました。

3月3日の総会では「だいたいこっちの方向に組織を変えていくことに関して、ご了解願えないだろうか？」ということをご提案をさせていただき、「そっちの見直しをすることに関しては良いよ」ということを公設試験さん、産技連の総会の中で決めさせていただきました。

今年になってからなんですけれども、その中で出てきた主な変更点というのは、現在9つの技術的な部会がありまして、それを6つの分野に再編するという話と、もう一つは、各技術部会の下に地域技術部会というのが、例えば生命工学部会ならば、生命工学部会東北北海道地域部会というふうに、技術部会の下に地域部会がついているという形の構成を取っていたのを、地域部会を単独で立ち上げて、今現在、地域産技連というのが、経済産業局主催で活動しているわけなんですけれども、そこを連携してやりましょうというのが、大きな改正点です。

9から6に変更しようとしています技術部会の活動の重点は、全国レベルの活動、全国でやるべきことを技術分野の部会の方でやりましょうということです。それから、地域部会の方は、地域の特性にあった経済活動があるので、地域の公設試験さんのそれぞれのご事情があるので、それを重点に地域部会では活動していきましょうというのが、ひとつの大きな変更点です。

組織上は9つが6つになる。それから、今まで技術部会の下に地域部会というのがあったんですけども、それを単独で立ち上げましょうと、組織上は地域産技連と連携していくから、産技連の下に地域部会をそのままぶら下げるのが良いのか、地域産技連の下のような形に書くのが良いのかというのがありますが、基本的には今のところ色々ご意見がありまして、「地域産技連の下でやるのが良い。」「そのまま並列でやるのが良い。」「いやいや、技術部会の下に続けてやるのが良い。」色々ご意見があります。

産技連の総会で、公設試験のことを考えていないんじゃないか？産総研というか事務局は公設試験のことを考えていないんじゃないか？ということをおかれて「公設試験が直面している問題をどういうふうに認識しているか？」みたいなことを、ここに列記してあります。この辺が非常に共通的な話題であるんじゃないかということをごきちんと認識しているということです。

17年にアンケートやったんですけれども、アンケートの設問があまりにも既定の方から取り出したような話で、あまり成果があるようなアンケート結果にはならなかったような感じです。だいたい予測されるようなことしか答えが返ってこなかったということです。

産技連再編における産総研の提案としましては、色々あるんですけれども、基本的に国の予算、今は地域中小企業支援型研究開発制度という形で、産総研に予算がきて、それをなんとか公設試験さんを絡めてやるということ、産技連を使ってうまく運用しようという話がある。その前は広域型の予算があったん

ですけれども、そういった産技連の中で運用できるような予算というのが、なかなか作り上げるのが難しい状況であります。ですから、どうしても競争的研究資金獲得のためのプロジェクト提案ということ、産技連の中で十分に揉んで対応していかなくちゃならないんじゃないかと。

それから、技術部会の全国レベルの話でありますけれども、やはり地域は地域でそれなりのニーズがあるんだと、それから各県の固有の問題があるんだと、そういうふうな地域固有の課題解決に向けたピンポイントの技術的支援というのは、地域技術部会で焦点をあててやりましょう。ということですね。

それから、人材育成という話があるんですが、産技連というか工技連の時代には、工業技術院の各研究所に公設試験さんから色々と研修等で、人的ネットワークを作り上げるということがあったんですけども、それがだんだん少なくなってきたので、なんとかその人材育成、公設試験さんと産総研との間の人材交流なり・人材育成なりについてちょっと手を考えていこうじゃないかということを考えています。

それから、色々な情報共有のやり方があるとは思いますが、今ここに書いてあるのは、今産総研の方では産学官連携推進部門に産総研のコーディネーターというのがあります。各県さんにも産学連携を狙うコーディネーターという名前かどうかは分かりませんが、財団等でやられているとは思いますが、そういうところの方々ともネットワークを作っていくということを考えております。

それから、この6つの分野に絞られるということで、非常に各公設試験さんから不安とか疑いとかいうような話があるんですけども、基本的にですね、ぶっちゃけた話をしますと、産総研が今向かっている方向というのはこういう方向でしかなくて、従来はもっと（他の分野にも）研究者がいたんです。ところが、どんどん研究者が辞めていき、定年退職でいなくなり、重点分野がこっちになってますから、新しい人は（他の分野では）全然入ってこない。現在いる研究者はこっちの方に焦点を当てている。

じゃあ、こういうふうな公設試験さんが抱えているような分野に対して、どうやって産技連では対応していくことが可能なかということ考えたときにですね、共通技術の向上ということで考えるしか手はないんじゃないかと、例えば食品なんていうのは、生命工学分野で現在は活動している訳ですけども、食品に対してですね、ライフサイエンスのバイオテクノロジーと結びついて、いわゆる京都の酒造メーカーさん

と京都市の研究所さんと一緒に、酒造メーカーさんが抱えている酵母とか麹菌とかそういうのを、うまいことうちのライフサイエンスの人間が研究しまして、新しい酒を生成していくとか。というふうな話が地域中小企業支援型の中でありましたけれども、そういうふうな形で、ここの接点のところで産技連という活動をなんとか活性化していきたいということがあります。

広域連携による技術交流を促進していくということ考えたとき、しかしながらブランドの問題がありまして、例えば今出たお酒の話なんかでも、県特有のお酒に関して他の県と協力してやっていくというみたいなことは、なかなか難しいよという話があります。そういうところはありますけれども、基本的にはこういうふうなところに焦点を当ててやっていきたいというのが、今回の組織の見直しの話です。

組織の見直しを図ろうとしたときに、色々な新しいことをやろうとしたときに、こちらの説明不足といいますか、きちんと説明していないんで、地域部会が技術部会から切り離されて産技連と連携的にやっていくと、技術部会との連携がなくなっちゃうんじゃないかというふうなことを描かれているんですけども、それはそんなことはなくて、例えば地域部会の中で、四国の新健康食品開発分科会みたいなことを立ち上げたいと言ってらっしゃる方がいるんですけども、そういうところでは技術部会ではライフサイエンスの方の人間も関わってくるし、製造プロセスの方の人間も関わってくると。そういう形でここところのネットワークというのは、独立に活動することによってネットワークの柔軟性をより高めようというのが狙いでありまして。

それで、一つはスケジュールなんですけれども、3月3日の総会後にすぐさまアンケートを取るというふうにお伝えしたんですけども、なかなかそうはいかなくて、アンケートをまとめるのに時間がかかりまして、6月にアンケートをやります。今、企画調整委員会というのが7月中旬頃にやる予定で今動いています。その7月の企画調整委員会でアンケートの結果を揉んで、調整委員会で産技連の総会に出す組織の見直しの案を出したい。それを初年による産技連の総会を開催しまして、そこで決議を取りたいと考えております。

3月3日の時には、この総会で決議するのは、8月1日、もしくは9月1日、10月1日になるかは企画調整委員会の中で決まるわけですけども、それを決めたときと同時に組織も変えたいということだったので、今、企画調整委員会に諮ろうとしてい

る案は、8月1日に規約を変えて、その変わった規約の施行は4月1日にするという形で案が動いています。組織が規約を改正された後の施行までの間に何をやるかという、移行準備期間としたい。なぜ規約をこの時点で変えるかといいますと、9月以降に各都道府県さんで予算の概算要求が始まると思うんですけども、概算要求を出すときに来年で活動する組織の形態がきちっと分かっていないと出しにくいのではないかとということで、規約だけはこの時点で改正させていただいて、実際に動き出すのは4月1日以降と考えて、今企画調整委員会に諮っています。企画調整委員会に諮って、そこで案がまとまり、なおかつ産技連の総会で決が採られればそういうふうな形になります。ただし、この中でどういうふうになるかというのは現在未定ですので、こういう形で動いていますと言うしか、現状ではお伝えすることができません。

というのが、今の産技連見直しに関する状況であります。

#### ・議長

どうもありがとうございました。そういたしますと、先ほどの産技連の組織改編につきまして、何かご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか？できれば挙手をお願いします。

#### ・三重県科学技術振興センター（榎谷氏）

技術部会は6部会ということでお聞きしているところなんですけれども、前々から私どもの方の職員がお聞きしていたのが、地質部会とか、計測標準とか、この先日デザイン分科会の方でもアンケートなんかでもあったんですけども、その辺の部会の内容もまだ、今検討されていて色々揺れ動いているような状態と考えてよろしいのでしょうか？

#### ・産総研久場氏

はい。そんな感じです。地質部会とかなんとか出てたのは、それは去年の12月の時点の話であって、3月3日の総会の時には既に、現在あるように、「ライフサイエンス」「情報通信・エレクトロニクス」「ナノテクノロジー・材料」「製造プロセス」「環境・エネルギー」「知的基盤」と、その6つになっております。お手元に何か、新しい6部会の名前が出ているのかな？

#### ・三重県榎谷氏

今、資料いただきましたけれども。

#### ・産総研久場氏

それがたぶんかなり古いやつだと思います。現在は「地質」っていうのはなくて、「ナノテクノロジー・材料・製造プロセス」という一つだったのが、それは非常に範囲が大きいということでそれは2つに分けて、6部会になっています。

#### ・三重県榎谷氏

もうこれは、今この形で進んでいると。

#### ・産総研久場氏

はい。そうです。部会の構成としては、今こういう形で各公設試験さんに「こういう形はどうだろうか？」ということで、この部会構成は12月に出したときに、各公設試験さんから意見が挙がってきたヤツを反映させた形でこういう風な6部会にさせていただいて、アンケート今まとめている最中ですけども、部会の構成に関しては「まあこんなもんだろう」という公設試験さんの意見が非常に多数を占めている状況ではありません。

#### ・三重県榎谷氏

承知しました。ありがとうございました。

#### ・産総研久場氏

はい。

#### ・議長

ありがとうございました。じゃあ、どうぞ。

#### ・志甫分科会長

すいません。今のご質問と、お答えと少しダブリますけれども、今お配りしたこのプリントございますよね？実は鳥取県さん経由でアンケートをお出ししたのは、今久場さんからも出ました12月の、実は資料を基にちょっとアンケートを作成して、そういうちょっと手違いがございまして、お詫びを申し上げたいと思います。

それで、3月3日のこの企画調整委員会。これは非常にオフィシャルなものでございます。今はこれで進んでいるということで、アンケートを採った項目と少し内容が変わっていることをご了解いただきたいと思っております。ちょっとお詫びなんですけれども、よろしくお願いたします。

#### ・議長

よろしいでしょうか。他に何かございますでしょうか？どうぞ。

### ・和歌山県工業技術センター（山本氏）

今度の6つの部会になるというのはですね、一つは研究テーマでいいんですか？そういったものを主体において、全国の公設試がその中に参画していくというふうに聞いているんですけども、そういった研究対象というものは、作っていくつもりであるのかどうかというんですか…。

### ・産総研久場氏

それはたぶん、産技連の活動として先ほど説明したときに、プロジェクトの話を上上げたと思うんですけども、昔はですね、それなりに産技連が采配できる予算というものがあった訳ですけども、そういう求心力となるような予算というのがだんだん産技連の中で無くなりまして、現在あるのは、まさに「地域中小企業支援型」という、産総研が経産省から受託している委託金があるんですけども、それだけなんです。

それも来年度は、競争的資金にしないでということ、今年の概算要求からかなり外される可能性が高くなっております。そういう意味で、求心力となる背景の予算がない中で、じゃあ産技連の活動というのは何を主体にしていったら良いかということを考えていった時に、そういう予算獲得というのは非常に、各公設試験さんの大きな問題なので、予算獲得をしていく為に、産技連の活動をしていこうとしたら、現在あります競争的資金、「地域コンソーシアム」とかですね、それから地域の色々ありますそうした政策に対してですね、応募していくってことを考えた時に、それに対してどうやってアプローチしていくかというのを考えていくべきじゃないかと。産総研と公設試験さんとペアを組んで、そういうふうなプロジェクトに対して、どうやってアプローチしていくかということ、考えていくべきじゃないかというのが、研究主体というふうに伝わっちゃってるのかもしれないですけども、そうじゃなくて、プロジェクトフォーメーションをなんとかしたい。というのが、いくつかの中のやりたいことの内の一つです。

そういう意味で、分科会なり、その下にできる研究会なりを、非常に短期的に、3年なら3年の間に、プロジェクトを追求するための議論を盛んにしていきたいと思います、そういう形態も一つあるんじゃないかと。全ての分科会をそういう形態にすべきだと言っている訳じゃなくて、そういう性格の分科会をどしどし作っていきたい。

そうじゃなくて分科会として今まで、物質工学部会は特にそうなんですけれども、伝統ある分科会が非常

にあります。デザインも同じように、表面とか木質とかね、色々あるんですけども、そういうふうな伝統ある分科会の中で、今までどんどん公設試験の中でも研究者がいなくなっていくような分野で、全国的に結びついて何とかコネクションを作って、その中で、そういう分野の中の企業に対する、産業に対する支援活動をどうしていったらいいかということ、公設試験同士で話し合おうという従来の形の分科会ですね、それを否定しているわけじゃなくて、そういう分科会とともに、こういうプロジェクトフォーメーションを狙うような分科会も作りましょうという意味だけです。

ですから、これしかやりません。とか、あれしかやりません。というような話は一つもなくて、新しいこういうことをやりたいんですけども、旧来のままだ続いている、もし惰性で続いているような組織があるんだらば、現在今、組織を見直そうとしているので、もう一度その組織の中で「何をやりたいのか」を組織を構成している人たちに「考えて下さい」というのが、今度の組織の見直しの、一つの大きなバックボーンです。

### ・議長

はい。ありがとうございました。

まだ他に質問があるかどうかはと思いますけれども、時間が押し迫っておりますので、質問ございましたら、また次の分散討議とか、全体会議の方でもまた、質問があれば、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、次の議題としてまして、提案要望事項の方に移りたいと思います。

## 2) 提案要望事項

### ・議長

今回の会議の内容でございますけれども、産技連の組織改編でありますとかですね、皆様で「公設試のデザイン担当のあり方」を話し合うということもありませんして、今回は特にですね、改めて提案要望事項というものはいただいておりますけれども、この場で改めてそういった要望があれば、お話していただきたいとは思いますが、いかがでしょうか？

じゃあ、特に無いようでしたら、この提案要望事項は、よろしいですか？無いということで先に進ませたいと思います。それでは、次に分散討議に移りたいと思います。

### ・事務局

例年とは段取りが変わっておりますけれども、これから分散研究会という形で、皆様に事前にお配りした、

デザイン担当者の、「公設試デザインのあり方」あるいは、「私たちはこれからどういったことを目標に仕事をしていった方が良いのか」というあたりを、各ユニバーサルデザインですとか、デジタルデザイン、あるいは地域デザインという形で、皆さんそれぞれのテーマで、事例発表とか、例年はやっていただいているんですけれども、今年はちょっとそういったことがありますので、それぞれの、ユニバーサルデザインならユニバーサルデザインの立場で、公設試のデザインとはどうあるべきか、デジタルデザインならデジタルデザインで、これからどうしていくことが本当に良い姿なのかというところを、話し合っていたらいいと考えております。

皆様のお手元にアンケートをいただいたもののダイジェストを作ってますけれども、これはもう少し、短い文章にしたかったんですけれども、皆様思いの丈がたくさん入っている文章なので、ちょっとそれ以上「切る」ということは、なかなか私の方では、一存でできるものではなかったもので、非常に長文になってますけれど、この分散研究会で討議していただきたいのは、資料の4～5ページ目あたりですね、問4のところなんです。その辺のところ、ここが皆さん書かれているものの本意というか、コアであろうという部分を太字で強調してありますので、それを参考にしながら、分散研究会の方、進めていっていただけたらなと思っています。

本日、別室というものがちょっと会場の方の都合で準備できなかったものですので、本会議の会場で、机を分けてちょっと進めさせていただきたいと思っておりますので、今から10分、2時まで少し、会場レイアウトの変更と言うことで、休憩取らせていただきますので、よろしくお祈りします。

<休憩、会場レイアウト変更>

### 3) 分散討議

<略>

### 4) 全体会議

#### ●各研究会の報告と全体討議

#### ・事務局

各研究会の討議結果についてざっと報告していただきたいと思っております。それではデジタルデザインの方から。

#### ◇デジタルデザイン研究会

(座長：佐賀県工業技術センター 川口氏)

基本的に、鳥取県さんから出していただいたアンケートはあまり、全然用いずに話し合いをしていたんですけれども、基本的にはデジタルデザインという業務というか、実際皆さんがデジタルデザインしている取り組みの中で、どういうことを考えているかという話をしました。

基本的に以前は高額なCADとかを導入していたんですけれども、需要が多いのは今は三次元のRP(Rapid Prototyping)です。試作をしたりするモデリングの方の需要が非常に多いということで、高額のCADなんかはなかなか、中小の企業さんには技術移転できないなど、反省の意味も込めて、今後はもっと中小企業さんに落とせるようなものを導入していかないとけないねという話になっていました。

それから、独法化の話なんかもチラッとでてきたんですけれども、鳥取県さんの方からですね、デザインをしたり、製品開発・デザイン開発といいますか、そういうことを頼まれたときに、料金体系はどうなっていますか？という話が出て、基本的には時間単位で取ってるところが多いのですが、総額にするとやはり民間ベースと比べて良いところ大体半額くらい。という話で、大体10万円前後が多いですねという話になったんですけれども。独法化したときに、じゃあそれどう考えるのかという話になったりして、実際、ペイするって考え方自体がおかしいんじゃないかとかですね。まあ色々話が出ました。

大体以上です。

#### ・議長

ありがとうございました。では、地域デザインの方。

#### ◇地域デザイン研究会

(座長：兵庫県立工業技術センター 後藤氏)

地域デザイン振興ということで、初めて出席したんですけれども、非常に大きなテーマだったので、特に何か限定せずに言いたいことを言ってもらったというのが現状なんですけれども、その中で、今後の公設試のあり方というものを話の中心に据えました。

やはり公設試への補助金といいますか、先ほどの産総研の方の話もありましたけれども、徐々に減っていく傾向にあり、またそれから、公設試の、昔であれば業界の方とかそうした応援団もかなり性質が変わってきたということで、やはりこれからは、デザイン分科会自体で、例えば新しい研究に限らず事業テーマ、例えば地域ブランドに関する事業とかそういったものを、共有で、共通で取り組めるものを提案していく必要があるのではないかという意見がありました。

また逆に、例えば経産省なり他の機関で、新しいデザインに関する支援制度みたいなものがあつたとしたら、これから創設されるよみみたいな情報があつたとしたら、それはいち早く分科会の会員内で共有できるようなことを考えていったらどうか。というのが提案でありました。

また、あともう一つはですね、デザイン分科会自体がやってることを発信するという意味で、分科会では無いのですけれども、例えば分科会の会員さんが開発されているものでありますとか、それから特に事業活動みたいなことは、地域デザインというくくりで、日本デザイン学会であるとか、そういったところでどんどん発表して行って、デザイン分科会に限らず公設試の活動そのものを、ある程度認知してもらおうとか、オーソライズしてもらおうということで、民間のデザインとも違うし、研究所とも違うんだよと、そのように各方向を線引きできるような、何か新しい存在理由みたいなことを、広く認知してもらおうということが必要なのではないかと。そんなような意見がありました。以上です。

#### ・議長

すみません。じゃ、最後にユニバーサルデザイン研究会の方でお願いします。

#### ◇ユニバーサルデザイン研究会

(座長：東京都立産業技術研究センター 阿保氏)

皆さんの方から毎度のことながら、この1年におけるユニバーサル研究もしくは指導事例などの報告をいただきました。

産技連の話もございまして、公設試との連携というふうなことも少し交えながらお話いただいた中で、なかなか共通意識をもって報告書を書くなり、一つの目標を持って活動するというのは、現実なかなか今までやった中では無理があつたなあという話がございました。

その、部会一つの目的として補助金を取るってということが一つのテーマだつたと思うんですけども、そういった中で、横断的な取り組みとして「ユニバーサルデザイン研究会」九州の4県さんが取り組んでいるその取り組みについての話であつたり、埼玉県さんが行っているような、企業が74社集まった企業研究会といった事例の報告をいただきました。

ユニバーサルデザインというふうなテーマの中で活動を続けていくってことで、当然製品化に関与してることが中小企業振興の中で懸案になってくるんですけども、そういった中で皆さんの最近の中では、分析ですとか評価技術、筋電図や血流計で何か測ってい

く、そういったユニバーサルデザインとしての評価、もしくは評価測定といった中に、ユニバーサルデザインマトリックスといったようなものを使った、ユニバーサルデザインとしての評価付け。そういったものが今までデザインというのが、スタイリングだとか絵的なものであつたということよりも、そういった分析評価といったことを取り組むことによって、組織内での評価の取り組み、もしくは外に、企業さんに対しても良い評価を得ている方向に最近は動きつつあるということですよ。

そこで、皆さんの中で評価技術に関しまして、情報交換等を行いながら議論を進めていきました。最終的にその、評価しましても、商品化して売れていかなければいけない。というわけですけども、そういった中で、最後はユニバーサルデザインといいましても、100%むき出しでやったものよりも、最終的には美しくなければ、なかなか取り組んでもらえない。売り場として置いてくれなかつたり、売り上げとしても直に反映してこないということで、スパイスとして扱っていくということを、スタイリングを否定した話の中で評価が評判良いよという話だつたんですけども、実際に中小企業が製品化として、モノとなって売り上げを伸ばしていくためには、やはりその意匠性、美しくなければいけないんだよというところで、話としては終わった形であります。

大体報告の方は以上です。

#### ・議長

はい。ありがとうございます。

ただ今、各座長さんの方から各研究会からの報告をいただいたんですけども、自分の属している研究会以外の方で、今色々のご報告されたことに対しまして、ご意見なり、ご質問ございませんでしょうか？

特に無いようでしたら、これはこれでよろしいですか？じゃあ次に進めさせていただきたいと思えます。色々本当にありがとうございます。

#### ・議長

次はですね、産技連の組織改編ということで、先ほど久場さんの方から色々のご説明いただいたのですが、改めて産業技術連携推進会議の中のデザイン分科会の位置付けということで、色々討論していただく勝手になる訳ですけども、この内容を各機関の色々な意見調整でありますとか、考えの違いがあるということで、ちょっと私自身、まあ若干部外者ということもあつてですね、ちょっとこの理解するのが大変だ。ちょっと若干、任も重すぎるということもありまして、大変

申し訳ありませんが、ここだけは進行役を志甫分科会長さんに、この議長をバトンタッチさせていただきたいと思っておりますので、分科会長さんよろしく願いいたします。

#### ・志甫分科会長

そうしましたら、そういうことでございますので、ちょっと引き続きですね、議論させていただきます。

ちょっとその前に話が戻るような感じになりますけれども、今の分散研究会で各研究会さんの座長さんからご報告がありまして、僕が所見でいいですか、感想の部分でちょっとおかしな話なんですけど、まあこういう同室の空間で3つ、ちょっと声が聞こえてきまして、たぶんみなさん一人三役とかね、それぞれの研究会に本当は属するようなことをされているんじゃないかなというふうに考えております。

それである、僕が久しぶりにこう出てみまして、デジタル研究会というのは実は8県でいいですか、8人でいいですか、8つの県が出られてたんですが、非常にグループ討議では人数的に良い感じで、非常に各県の温度差というものを直に感じ取ることができました。良い悪いではなくて温度差ですよ。ものの考え方とか、それから行政の中での位置付けとか。そういう意味で非常に示唆に富んだ話もおおごございました。

で後、地域デザインさんの方からのご報告で、非常に積極的なお話があったと思います。ユニバーサルもそうだったような気がするんですが、例えば今ブランド戦略等ですね、何か共通のテーマに取り組むという話とか、情報の受け渡しもそうですね？

先般、まだ一週間経っていませんけれども、金沢の方で日本デザイン学会がございました。私は総会の方の議事をちょっと勤めさせていただいたのですが、いわゆる今までのデザイン学会というのが企業の方が結構入ってらしたんですが、ほとんど大学に転出されてるんですね。そのデザイン学会で旗振りをしてた方が。そうすると、もうほとんど「学」が中心になっている。そうするとですね、私のような立場で参加しますと、非常に物足りないといいますか、リアリティが薄いというか、いわゆる修士・博士の課程のいわゆるまあそういう、言葉が過ぎるかもしれませんけれども、そういう感じを受けています。

ですから、情報を発信するということではですね、デザイン学会が良いかどうかは別にして、まあ感性工学とか色々あると思いますけれども、ユニバーサルも福祉の方もありますけれども、何かそういうようなところに積極的に私たちが出て行くということは非常に大きな意味があるんじゃないかなと思います。

それから、ユニバーサルの方も非常に分析・評価ということで、ただその技術に留まらずに製品化・商品化、非常に心強いようなご発言だったと思います。

そういうような感じで、ちょっと私見になりますけれども、こういう分散研究会をですね、できれば続けて、非常に有意義な状態であったような気がします。

すみません、時間がおしているのでアレですけども、あと私が長々としゃべっていてもしょうがないんですけども、それでは引き続きましてですね、皆様の方に非常に事前に調査をさせていただきましたことにつきまして、これは鳥取県さんの方で少しご説明いただいてよろしゅうございますか？

#### ・事務局

6月の頭のころから、デザイン分科会というものが物質工学連合部会というものに属しておるわけですけども、そこで、それが6部会に再編されていく中で、デザイン分科会の方では、2～3月頃に大分の坂下前分科会長の方から「こうした話があるんだけど、どうしたら良いか」という問いかけがメンバーリスト上であったと思います。

鳥取県で分科会を開催するに当たって、次年度、鳥取県以降の分科会をどこに属してどういうふうな形で進めていったら良いかというのを、決めてくれという意志、大分の坂下前分科会長からは言われてましたので、それについて各県から基本的には、新たな6部会のどこに属するのかというあたりを、集約できれば良いですけども、まあおそらくできないでしょうから、各県さんの意見を正式な形で取りまとめようということで、アンケート調査をさせていただきました。

その結果が、お手元にあります、この円グラフのヤツなんですけれども、問としては2つというか3つというか、で1番として、デザイン分科会として、産技連が提唱する新たな部会の下に加わった方がよいかどうか？ということ。これは、読んで字のごとくですけども、久場さん方でおっしゃられたその6部会に、入るのか入らないのかということですけども、結果として、総計の割合でいくと、「はい」が59%、「いいえ」が31%ということで、まあ6割の方々がデザイン分科会は何らかの形で、産技連の傘下に加わった方が良いと。

で、次の回答が問題なんですけれども、じゃあ産技連の傘下に加わるとして、ではどこの部会に入りましょうかということなんですけれども、それが「適当なものがない」60%ということで、6割の方々は、何らかの形で産技連に属した方が良い。属したいと思っておられますけれども、現実の6部会の方には、自分



たちが属せるようなテーマ立ての部会が無いという形で回答されていると。いったことが今回のアンケート結果で出てきたということです。

これをもってだからどうだということを言いたくは無いですが、せつかく全国から皆様鳥取に集まられている分科会ですので、このことを揉んでいただいて、じゃあデザイン分科会としてどういう方向に行ったらいいのか、どういう産技連への関わり方があるのか、といったあたりを少し議論していただきたいというのが、今回の鳥取県の狙いです。

事務局的にはこんな感じですが、

#### ・志甫分科会長

ありがとうございます。これはあくまでアンケートということでございますので、これで多数決をどうこうということでもございませぬし、またデータそのものがどうこうといえるような問題ではないと思います。それで、まず最初にですね、このアンケート内容とか、調査内容についてももしご質問があれば、最初にちょっとお聞きしたいんですけども…。はい、どうぞ。

#### ・大阪府産業デザインセンター（川本氏）

質問というより意見なんですけれども、特に問2の質問に関してですが、これあの、こういうアンケートをしていただいて、汗をかいていただいた鳥取県さんには心苦しいのですが、この実態とですね、この6部会の名称、実態が現在変わっておりますんでね、我々このアンケートを答える時点で、そのことはまあ理解しておったんですが、そういうことを理解しておられる各県の皆さんもいらっしゃると思うんですが、まあ「製造プロセス部会」が独立してあったりですね、そういう実態が変わってきておりますんで、この特に問2のアンケートは、今成立しないんじゃないかと思っております。

できましたらここだけでも、あるいはその、前後がまたそれに影響を受けているかもしれません。だからここだけでも例えばメーリングリストか何かでもう一回ですね、取っていただけないかなと思っております。

で、タイトルだけでは漠然としていてですね、皆さん何となくこの部会はこういうことをやるんじゃないかなということがあろうかと思っておりますんで、産総研さんの方にはですね、是非ともこの部会の中身が何であるのかということも補足した中で取っていただけると、もうちょっと変わるかどうかは分かりませんが、そういうことであります。

#### ・志甫分科会長

今のご質問と申しますか、ご意見ごもつともな話でございまして。先ほど冒頭にも申し上げましたように、12月時点の資料といわゆる3月3日に公表された資料の区別が違って、お詫びを申し上げた次第でございまして。あの「製造プロセス」そのものが…、あつと、後でお配りしました表裏の1枚紙にですね、補足説明が裏側にこう少し、ご説明が書いてございます。それでこれを見ますとですね、あの確かに「製造プロセス部門」、この部分が独立してあるのとないのでは、受け取る印象が違います。

それから、ざっと見ただけでも、「適当なものがない」という…。違う言い方をすると、「ライフサイエンス」には入れるかもしれないし、「製造プロセス」には入れるかもしれないし、「知的基盤部会」ここ、人間生活という部分が入ってますんで、これかもしれない。そういう状況かもしれません。

で、今日の残された時間での議論を踏まえてですね、この問2に関しては、今のご提案のとおり、もし必要であれば、そういう感じでもう一度問い直すということをしてみたいなというふうに私は思っているんですが、ちょっとこれは一回、この時点では棚上げにさせていただきます。

はい。どうぞ。

#### ・宮崎県工業技術センター（島田氏）

今ちょうど、その提案があったんですけども、久場様に質問したいのですが、「まだ部会は混沌としている」ということであれば、人材はおられません、「デザイン部会」というものの創設が可能かどうか？そして、そうでなければですね、日本産業デザイン振興会様が今度六本木に移りますけれども、国の機関の方もデザインに対しては、今後何らかの措置をとというような考えの方もおられます。そういうことも含めてですね、もしかしたらデザイン担当がいなかったら、外部へ移管する。そういう発想もあるのか。その辺のことをちょっと教えていただきたい。よろしく願います。

#### ・産総研久場氏

部会の構成なんですけれども、現在9部会を6部会にするという話は全国レベルの話で部会構成を考えているので、これを今企画調整委員会に出す時にデザイン部会を付け足すという形はですね、ちょっと難しいかと思っております。というのも、繊維部会とか窯業部会とかですね、現在部会として存続しているところに対して、この6つの部会に、分野に絞るので、対応を考え

てくれということをお願いしちゃっているので、デザイン部会を新たに創設するという形は現時点で非常に難しい。それも全国のレベルの分野で、文部科学省が推奨している、4分野プラス4分野という中の位置付けで考えていますので、その中にデザインというのが入っていませんので、なかなか難しい論理付けになるということで、デザインを部会として新設してほしいという要望はいくらでも出せると思いますが、企画調整委員会の中でそういうのが、認められる可能性は非常に低いということです。

それと、もう一点なんでしたっけ…。ああ、産技連の外に出るということですが、それに関しては、産技連の事務局をしているところとしては、特にご意見を申し上げるような立場にないので、それは部会・分科会を構成されている方々が、どういうふうにお考えになるかによって、ご決断いただければということです。

・宮崎県島田氏

自分たちの決断ではなくて、産技連の対応として、地域の、今色々な、だらだらとやってきた部会があると思いますけれども、色々な部会から要望が出たときに、外部に移管という形で。そういう考え方があるかということですが…。

・産総研久場氏

すみません。移管という意味がよく分からないんですけども、部会として存続をそのまま、産技連の下にデザイン部会というのを作り、なおかつその事務局を外の組織に移管することが可能かという意味合いですか？

・宮崎県島田氏

そういう意味です。

・産総研久場氏

ですから、一番最初の設定である、デザイン部会そのものの設置が産技連のもとに認められるという可能性は非常に低いとは思っていますので、ご要望いただければそれは、そのまま企画調整委員会の場に、「そういう意見がでていましてけれども」ということは、あげられるとは思いますが、今この部会の構成を、企画調整委員会に変えた形で出すということは、事務局としては今のところ考えていません。他のところから、だからそういう意味で言えば、部会そのものが設置された場合に、事務局をどこに置くかというのは、それはその部会を構成する方々が「事務局をここに置きたい」ということを、積極的に言っていたか

ない限り難しい。産技連の部会として、承認されるか承認されないかというのは、企画調整委員会及び産技連の総会で決まる話で、そこでもし決まった場合に、事務局をどうするかというのは、その部会を運営される方々が、自らどこに事務局を置くということを、決めていただかざるをえないと、いうことです。

・宮崎県島田氏

はい。どうもありがとうございました。

・志甫分科会長

宮崎県さん、それでよろしゅうございますか？

・宮崎県島田氏

はい、承知しました。

・志甫分科会長

もう一つ、産デ振さんのお名前も出てたんですけども、ちょっと私、質問の意味が分からないんですけども、これお答え…。

・宮崎県島田氏

いや、必要ないです。例えば…。

・志甫分科会長

例えばというお話でよろしいですか？

・宮崎県島田氏、志甫分科会長

はい。

・志甫分科会長

えー、これに関してはですね、どうでしょう？もう少し時間もございますので、なんて申し上げますか、必ずあの一、3月の頃に何度かこう、メーリングリスト上で何人かの方がご意見をいただいたかというふうに思っておりますけれども、必ずあの一、私見といいますかね、個人的な意見というのと、あといわゆるチームといいますか、セクションというか、そういったところでの意見と、少し若干分かれてくると思います。それで例えば、どういうことかという、平たいお話をするとですね、例えば、私が石川県のデザインセクションのマネジメントをやった訳なんですけれども、そうすると若い方をですね、若い方という言い方はアレですけども、こういう会に出しやすいという、そういうようないわゆる、こともあります。ですから、あの必ず個人的にはこう思うんですけども、あるいは、ただ組織としてはこうだ。というような、なんかそういう言い方もあるかと思いますが、今、その

ようなことも踏まえてですね、少し皆様の意見をですね、今一度…。あのメーリングリスト上の意見というもの、ある時点でプツッと実は切れた。という言い方はおかしいのですが、そういうふうな状態となっておりますので、せっかくの場でございますので、色々な年代層もあり、先ほど私が申し上げたとおり、各県によって結構色々立場立場違いますし、温度差もあります。ですから、少し生の声を聞くというのはですね、非常に僕は重要だと思っておりますので、ご発言を是非お願いしたいんですけれども、いかがでございますでしょうか？

はい、お願いします。

#### ・熊本県工業技術センター（原口氏）

このアンケートの中にですね、例えば、「デザイン分科会を継続しますか、しませんか？」というアンケートをした場合にですね、100%の方は皆さん、「継続する」という答えになると思うんですよ。これほど、長い歴史がある研究会ですから、例えばここで切れてしまうと、また再編してやるということは、相当な負荷がかかってくると思います。

正直ですね、前に横断幕がありますけれども、この「物質工学部会の中のデザイン分科会」ってよく考えてみるとですね、これやっぱり不満があるんですね。今回、やっぱりこの、デザイン分科会を継続していく上で一番負荷がない状態を考えたときに、例えばその「物質工学部会」が、例えば「ライフサイエンス」になるとか「製造プロセス」になるとか、ま、考えてみればその名称だけの問題というふうに、ここは気持ちを切り替えるというかですね、そういう考え方でやっていただいて、ぜひこの「デザイン分科会」を、産技連の中の会議としてですね、継続させていくことを、やっぱり考えていただきたいなあというふうに思います。

それと、独自の開催・活動ということになるとですね、やっぱり全国レベルで意思統一をして、ここ一年ぐらいで作り上げていくというのは、大変な作業がかかると思いますので、その辺のところの難しさも考えてみると、その「ナントカ部会」のところをですね、どこかデザイン分科会として一番近いところを、分科会長さんが産技連の事務局とちょっと折衝していただいて、例えばライフサイエンスだったら、デザイン担当者がいるのでデザイン分科会の世話をしますとか、その辺の事務レベルの折衝で、何か解決していただけないかなと思います。

#### ・志甫分科会長

ありがとうございます。

今のご意見で、ちょっと僕の記憶違いかもしれませんが、前、生命研とかですね、ああいう改組があったときにですね、「物質工学連合部会」という今の「物質工学部会」ですけれども、あのときもやっぱり馴染まないなあという、そういう印象がかなり強かった気がします。

で、誤解を恐れずに申せば、今のご意見は、まあ軽い問題じゃないかというようなご意見かなあというふうに思うんです。まあそれが非常に、移行としては良い意味で楽だし、というようなご意見かと思えます。

たまた、一つだけこの分科会そのものですね、確認です。確認というとアレですけれども、皆さんたぶん「継続」ということはもう間違いなくする。ということですね？それはもう確認させていただきたいんですけれども。その継続をする中に、今のご意見のようにその、冠をいただくのか、それともその、独自に何か自分たちで、何か運営をですね、やっていくのかみたいな、お話になるんですけれども。この部分に関して、「いや、産技連の外に出た方が良い」というようなご意見の方はいらっしゃいますかね？あるいは、それ以外でも結構でございますが。いかがでございますかね。

#### ・京都府中小企業技術センター（福岡氏）

産技連の外に出た方が良いとかそういう以前に、ちょっとこれはご確認なんですけど、確かですね今回の6部会について、その下にできる分科会は3年間か何かの期限がついていたと思うんですね、その間に何らかの成果を出すための研究会・分科会というような話だったと思います。そういう意味で、今回の今お話しされているようなスタイルというのは、そもそもそぐわないのではないかな？というふうに考えます。

で、その一方で、今、今日行いました分散研究会みたいなものっていうのはですね、この6テーマのいずれかにテーマとしてあげていけるような内容ではないかなというふうに思うんですね。これはちょっとさっきの研究会の中でもちょっと話していたんですけども、そういう形ではあつていいのだろうというふうに思います。

で、デザイン分科会、今行っているような情報交換と、研究発表との場というのはですね、こういう分科会は、もし産技連さんの方で「そういう場も作ってやるよ」ということであれば、乗っていけるとは思うんですけれども、そうでなければ、やはり独自でやっていくのか、何か別の場を設ける必要があるのではないかなというふうに、私自身は考えております。いかがでしょうか？

#### ・産総研久場氏

分科会の性格として、プロジェクトフォーメーションだけを考える3年という期限を考えて、分科会をやりましょうというふうなことは、新たな分科会の形態としてそういうのを付け加えましょうという意味合いであって、分科会を全てそれにするというふうな制約をかける意味合いではないつもりです。

現時点で、色々分科会の申請がありますが、従来型のいわゆる、その分野の研究者がその地域の中でコネクションを持つための分科会として活動したいという申請もありますし、全国レベルの技術分野の中に、全国レベルでそういうふうなコネクションを維持しつつ活性化を図っていききたいというご意見もあります。

分科会は、3年をめどにもう一度考え直すということを経験付られてはいますが、3年を経たらば、もう次の分科会にしなければならぬということはありません。ただし、研究会に関しては、完全にプロジェクトフォーメーションを考えてやって下さいということ、ある程度かなり強く押し出していますので、研究会に関しては、3年間やったらば一端解消して、また新たな研究会が必要ならば立て直すと、いうことを規約改正の中に入れていただいています。よろしいでしょうか？

#### ・京都府福岡氏

ありがとうございます。

#### ・志甫分科会長

今のお話は先ほどのパワーポイントでのご説明の中にもあった、プロジェクト提案型のものが、活性化策としてあっても良いじゃないかというふうに僕は受け取っていたんですが、今のお話、それでよろしゅうございますかね？

#### ・産総研久場氏

はい、半分はそうかもしれませんけれども、もう半分は確認したいと思います。

#### ・大分県産業科学技術センター（豊田氏）

先ほどの地域デザイン研究会の中で、個人的な意見ですが頭にあったかと思うのですが、窯業にも繊維にもデザインの活動があって、そのデザイン担当者と一緒にいるようなことも考えてみては？というふうな意見もありましたけれども、窯業とか繊維の方はどういう部会に入ろうとされているのか、それをお聞きしたいと思うんですね。もしそれがですね、同じような部会であればですね、その中で一つのパワーを発揮すると思いますので、そういうのを調整というん

ですか、同じところに入るような形になれば良いなと思いますので、もしそうできるなら、先ほど原口さんが言われたように、どこの部会でも良いってことはないですけど、一番適当な部会に入って、そこに同じようなデザイン担当が集まるというのが、私としては理想ではないかなと思います。

#### ・産総研久場氏

えー、すみません。うろ覚えでしか答えられないのですが、繊維はたぶん「ナノテクノロジー・材料」の方で、窯業はセラミックスという名前を変えて、やっぱ「材料」だったような気がするんですけども。すみません。そこところはきちんと調べないと分かりません。ですからデザインという意味では、繊維と窯業の中にデザイン分野の方がいらっしゃると思いますが、その上の分科会のレベルが非常に材料寄りなので、デザインとは同じ部会になるかどうかというのは非常になじみが薄いんじゃないかな？という気がします。

#### ・志甫分科会長

これはものすごく、豊田さん、あの、各県でね、違うと思うんですね、私も石川県とか岐阜県さんもそうですけれども、いわゆる繊維っていうね、それから窯業を擁している、その分散してたりとかですね、なかなか県の中でも、おっしゃる意味で僕も繊維のデザインの方が間近にいて、全然違う分科会になってたりとか、もったいないなと思うんですけども、これは今みたいなことがおこっちゃうんですね。やっぱ繊維という部会が無くなって、高分子でナノテクかな？とかなんかよく分かんないような状態にはなってると思うんですが、それはそういうことなんですけど、しょうがないということよりも、まあそういうような方向で、何か歩み寄れば…。ということは努力したいと思えますし、ま、努力できる問題じゃないかもしれませんけれども。

#### ・大分県豊田氏

一緒になるという意味じゃなくて、同じような組織の下にぶら下がっていただければ…。

#### ・志甫分科会長

あの一ですから、そこまでの、今ちょっと即答できないような問題でもあるかというふうに思います。

#### ・産総研久場氏

部会の下に分科会レベルで、同じ部会に入っていれば、より分科会の合同開催等が、もしくは情報交換等がやりやすいような状況になるというふうにお考えで

したらば、それは部会を超えても同様に、合同開催等はいくらでも、そこんところは、制約するものは何もありません。

合同開催等はいくらでも、違う部会の違う分科会同士が合同開催されても全然問題なく、情報交換という意味では、部会・分科会がどういう活動をしているかということに関して、今まで事務局がそのところまでやりきれていない状況なんですけれども、なるべくそういうふうな情報をですね、今度はこういう部会が、分科会が、研究会が、いついつこういうところで行われますみたいな情報は、できるだけ会員の方に産技連の全メンバーの方にですね、流せるような形を考えたいな思っていますので、いわゆる組織の長の方々ですね、研究会なり分科会の会長さん同士の交流というか情報交換も、できるだけやりやすいような形の仕組みを今後考えていきたいとは考えています。ただ、どういう形でそれが実現できるかというのを、今この時点で姿を見せるということは、なかなか今のところ難しいという状況であります。

#### ・佐賀県工業技術センター（川口氏）

ちょっとお尋ねしたいんですけども、今この、今回のアンケートの結果からすると、ライフサイエンス部会の方に申請するということが濃厚なんですけれども、必ずしも分科会を申請したからといって、採択になるとは限らないということが書いてあったと思うんですが、今のデザイン分科会、規約等々ありますけれども、そこに目的とか、どうやって活動するか書いてありますけれども。もしライフサイエンス部会の方にですね、このデザイン分科会を申請した場合、通りそうかですね、通りそうじゃないかということか。それを…。それと、いつですね、どういう形で、合格か不合格か決められるのか、というのはまず一つ聞きたいと思います。

それから、もう一点ですね、どうしようかこう悩んでですよ、分科会自体はいつでも申請できるよという話だったんですけども、来年度まで持ち越してしまったと、デザイン分科会どうしようかということですね、そうしたらもう、物質工学部会のお墨付きは無くなる訳ですね？ どういう形でもし開催しようと思ったら開催できるのかなと、その二点についてお願いします。

#### ・産総研久場氏

まず第一点の、部会に分科会を申請した場合に、どういう形で承認されるかという形ですけども、規約上は、部会の総会で決まります。ただし、今までそういう分科会を申請して、その部会が拒否したというこ

とは無いので、現実的には、ライフサイエンスの下でデザイン分科会をやりたいと、デザイン分科会の方々を考えれば、それはその下でやれると私は考えています。

ですから、部会の中に分科会が承認されるかどうかというのは、部会の総会決議によるわけですけども、まず拒否されるということはありません。私自身は考えています。

それから、2点目の質問は、いつ誰が決めるんだという話だと思うんですけども、今、話が出てきましたように、分科会は部会に対して申請するわけですけども、部会の総会で決議されて、部会員達で決められるということです。今までの部会総会で、そういうふうな分科会の申請に対して、基本的には、そういう分科会を作るから何とかしてくれというのが、その前からあるんでしょうけれども、ま、そういうことがあったとしても、部会が分科会を決議で、申請されたけど否認しましたという例は一個もありません。

それと、3番目に分科会を申請する時期の話ですけども、物質工学部会は今年度の3月31日まで継続するわけです、4月1日から物質工学部会というのが、今の案がそのまま産技連の総会で決議されれば、その内容の状態になります。そうしますと、物質工学部会の下にあるデザイン分科会というのも、自動的に消滅せざるを得ない。物質工学部会の下ではですね。

では、その分科会が無くなってしまったときに、じゃあその分科会を開催するってことを、産技連というの名前の下に呼びかけることが可能かどうかという話ですけども、規約上はできなくなります。規約上はできなくなりますが、産技連の組織改編により分科会が混迷しているのも事実ですので、分科会の今後の運営について結論を先送りにすることで、当面、産技連の名の下に会議を開催することについては、産技連が拒否するというのはちょっと考えられないので、それはそれでできると思います。

が、もしかしたら仮の姿として、「ライフサイエンス」でも「製造」でもその下に留まりますという形で、とりあえずは申請しておいて、それを母体にして違う構成を考えるということをお考えになった方が着実だとは私は思います。

#### ・志甫分科会長

あと、すみません。もう一つですね、今、先ほどちょっと棚上げにしたんですが、「ライフサイエンス」が分け方がね、アンケートでこの、数字だけではちょっと、先ほどのご指摘の通りアレなんですけれども、この中で無いですね、「知的基盤部会」ですか、この部分をちょっとご説明いただけると有り難いんですが。

## ・産総研久場氏

後から配られました、表裏のコピーですね、産技の「技術連携推進会議組織再編について(案)」ということで、右肩に18年3月3日、産技連企画調整委員会。企画調整委員会に出したこのページなんですけれども、それにその補足説明とって裏のページに、「知的基盤部会」という形で出てます。

これはですね、非常に「知的基盤」という名前が、国レベルの政策ではよく使われている話なんですけれども、公設試験の方にはあまり馴染みがない名前だったようで、色々な方から質問されたんですけれども。

基本的には研究開発をする際に必要な、基盤技術があるであろうと。そういう基盤技術を整備していくということが、やはり大切なことであるので、それを何とかしなきゃいけない。色々な「知的基盤」の名の下に色々な、主にデータベースですけども、が作られています。畠中さんがいらっしゃいますHQLもかなりご尽力いただいて、その知的基盤の予算で、色々なデータベースを作成されていますが、「計量標準」とか、「人間生活」というのが、この中に分野として入っています。

そういう意味で、「地質」もその中に入っているんですけども、いわゆるその、ちょっとデータベースに直結してる訳じゃないんですけども、実質的に活動自体はそのデータベースをいかにして整備していくかと、そのデータベースも非常に特化されたデータベースではなくて、産業そのものを支えていくような基盤的なデータベースを、いかにして整備していくかということ、国が考えている分野が「知的基盤」だと。いうふうにお考えいただければと思います。

畠中さんどうですか？今ので…。

## ・人間生活工学研究センター (HQL 畠中氏)

私がこの文章通りに読んだ印象では、ある特定の産業分野にこう、縦割りっていう型じゃなくて、なんか横断的な、どこかの業種になんか属さないようなものが、ここに入るのかなというので、私には個人的にはデザイン分科会ってここが良いのかな？って私は思います。

で、いいでしょうか？

## ・産総研久場氏

どうもありがとうございます。一つ付け加えておきますと、現在「知的基盤部会」に入ってる方が、非常に偏ってまして、計測と分析。いわゆる産総研の中の計量標準の研究者が、支援するような分野だけが入っています。そこに今度、地質の、実はその、公設試験には地質の研究のことをやってらっしゃる研

究所の方が北海道しかいらっしゃらないですけども、各都道府県に地質のことをやられてる方が、公設試験ではないんですけどもいらっしゃる。

そういう方をネットワーク化している産総研の研究者がいて、そういう方がぜひ「知的基盤」の中に地質の分科会を作って…、「知的基盤」に関する分科会を作りたいというふうにおっしゃってますので、今のところその「知的基盤」に声をあげてらっしゃる方は、計測・分析関係の方と、地質の方。

人間工学に関しては、今のところ産総研の研究者が、「知的基盤」ということで名前があがっているのに、あまり参加されていないんですけども。それはその、公設試験の方があまり参加されていないので、自動的に産総研もそこに参加していないということ…。

次は人間生活関係の分科会を作りたい、もしくはデザインに特化した形で分科会を作りたいという声があがってくれば、産総研の中には、人間福祉医工学研究部門っていうのがあって、昔の繊維科学研究所、生命工学研究所の流れを汲んだ、人間工学の関連の研究者がそこにいます。

人間工学の研究者が直接デザインをやってる訳じゃないんですけども、いわゆる動作計測なり、身体計測なりそういうこととか、五感の特性ですね、味覚・聴覚、そういうことを研究して、そのデータを下に新たな工業デザインを推進していくにはどうしたらいいかという、計量標準みたいなことを研究している人間がおりますので、ここは非常にデザイン…、デザイン専門というよりも、人間の行動デザインとか、人間の生活デザインとか、そういうふうな形になりますと、非常に馴染みが強く、高くなるというふうに思います。

## ・兵庫県立工業技術センター (後藤氏)

それはすみません、ライフサイエンスとはどのような関係なんですか？

## ・産総研久場氏

ライフサイエンスとどういう関係になるかということですか？

## ・兵庫県後藤氏

はい。例えばその、僕も産総研の人間、福祉医工学研究部門の下で研修を受けさせていただいたんですけども、やっぱりそういう人間工学的なデザインをしようと思ったら、非常にそういう知識って役に立つので、これからもそういうことしていただきたいと思ってますけれども。

例えばそういうことを、デザイン分科会の研究の一つの視野としておいた場合、それに対応する産総研の

研究分野っていうのは人間福祉医工学部門だと思うんですけども、それは産技連ではどの部会に対応…、

・産総研久場氏

産技連でいくと、人間福祉のところに入っている連中が立ち上げたのが、「福祉技術部会」なもんで、「福祉技術部会」の方にどんどん力を入れてますので、今のところ福祉技術部会にはそういう人たちがたくさん参加してますけれども、「知的基盤」には一人も参加されてはいません。ですから、「知的基盤」という形で、人間福祉の連中を巻き込もうとしたらば、ちょっとそういうふうな仕掛けを必要とする必要があるかなと思います。

・志甫分科会長

あの、立て続けの質問で申し訳ないですけども、今の福祉の方の部会は無くなるわけですよね？

・産総研久場氏

はい。「ライフサイエンス」の方に福祉技術分科会という形で…。

・志甫分科会長

いわゆる部会ではなくて、「ライフサイエンス」の下って言い方が悪いですけども、いわゆる分科会のような形で移行されるというふうに受け取ってよろしいわけですね？

・産総研久場氏

はい。そうですね。

・広島県立東部工業技術センター（橋本氏）

今の話のちょっともう一回確認のような形なんですけど、先ほど久場さんの言われた生命研の流れを汲む方々という方と、福祉技術部会の方々というのは、「ライフサイエンス部会」の方に入っていくということでよろしいですね？

・産総研久場氏

はい。ちょっと私が製科研、生命研で、出たもので、ちょっと言い忘れてたんですけども、福祉技術部会は生命研・製科研の流れと、それから機械技研が福祉関係のことをやっていたんで、機械技研の福祉研究分野の連中と合体してやられたものが、福祉技術部会ということで参加しているということです。

・広島県東部橋本氏

わかりました。それですね、先ほどの話で、「知的基盤部会」の方は、やはりデータベースとか、たとえば人体寸法のデータベースとか、そういうような印象でいくということですので、このデザイン分科会でやっているようなことっていうのは、やっぱり「ライフサイエンス部会」の方が近いというような印象でよろしいんですかね？

ちょっと、これを帰ってですね、非常に「ライフサイエンス部会」と「知的基盤部会」のどっちなのかな？というようなものすごく説明がしにくいなと思ったんですが、今の話ではそういうふうに受け取ったんですが。

・産総研久場氏

そうですね。現時点の産総研の研究者の支援状況からいってらば、もし人間福祉医工学部門のですね、研究者が一番デザインに近いということを前提として考えるならば、「知的基盤」には人間福祉の連中は今のところいませんけれども、「ライフサイエンス」の方に行くであろう「福祉技術部会」の方には、分科会の方には、たくさん参加しているという状況です。

・広島県東部橋本氏

わかりました。その辺の動向というか、その辺の話ですね、もし次のアンケートを答えるときには、ちょっと教えていただいた方が、判断がしやすいかなと思います。

・産総研久場氏

えー、そういうご動向を、たぶんデザイン分科会の事務局の方ですね、ようするにフレームの問題で、たまたまちらっと聞いたらその話が非常に大切な話だったというふうに、なれば話に盛り込めるんですけども、どうやって囲い込めば良いのか事務局さんが苦労されると思うので、要望は正しいと思うんですけども、それに事務局さんが答えるのは非常に至難の業ではないかなという気がします。

ですから、思いつく限りのことは、私が知ってる限りのことはお伝えしますが、「このところは説明しきれなかったんじゃないか？」と後から追求されても、それは事務局にとって酷ではないかと私は考えます。

・広島県東部橋本氏

はい。わかりました。

・志甫分科会長

できれば、今の久場さんの意見でいいですか、そういうふうにしていただくと私どもは有り難いんですけども、ただ、オフィシャルな…、オフィシャルじゃないという言い方もおかしいんですけども、なるべく情報については、直接なり、私どもの方にお聞き合わせいただいても良いのかなと。久場さんにお聞きしてもよろしゅうございますね？

・産総研久場氏

はい。

●デザイン分科会のこれからの活動についての総括

・志甫分科会長

時間が大分、予定の時間になってきているんですけども、実はこの討議を始める前に…。あ、どうぞ。

・和歌山県工業技術センター（山本氏）

私今回、近畿の部会長の役を仰せつかっておりますので、今回の流れを汲んだ上で会議を開催せんといかんで、ちょっと今日お聞きしたいんですけども、アンケートをした結果、6割の方が、デザイン分科会というものを存続したいと、で、にもかかわらず、「ライフサイエンス」に入るのかどこに入るのかというのが、はっきり分かっていないと。で、今、議長のおっしゃったとおり、デザイン分科会というのは存続をする意向で間違いないですね。という確認を取られました。

で、今、久場さんがおっしゃったように、来年の3月末日をもちまして、物工連のデザイン分科会というものは無くなります。ということですので、今後の予定といいますか、今、即答はできかねないところはあるかと思うんですけども、いつごろまでにどういった方向で、どういう提案をされていくのか？というふうなメドを、あれば…、あるいはどういう調査をするなり、まあ調査はもうされたと思うんですけどもね、これからどうされて…、まあ来年度例えばこの分科会を開催するということになると、どういった格好になりますか？ということでも良いんですけども。

・志甫分科会長

ですからそれをね、実は今日、締めといいますかね、総括していかなきゃいけない訳なんですけれども。僕はさっきちょっと言いかけたのはですね、非常に6つの部会に対して、理解力といいますか、なかなか理解し難い状況が実はあったと思います。で、こういう感じで、冒頭にも申し上げましたけれども、リアルというか、生でといいますか、久場さんにも来ていただい

てですね、色々こう情報を…、僕自身もですね、はっきり言って石川に居るときと今ここに居るときでは、情報量が全然違います。

ですから、今、この場でですね議決をするということは私は考えておりません。ただですね、先ほどから、8月1日に規約が変わり、4月1日に立ち上がるということでございますんで、少なくともこれをずるずるとこう引っ張っていくということも得策とは思いません。

で、先ほどからご意見をずっと、こう色々な方がご発言いただいて、まだ足りないかもしれないんですが、終始その冠の種別をどうするかというようなところに議論がいつてるような気がします。ですから、少しこの辺はですね、一回みなさんにお諮りしたいんですけども、まず分科会の継続は先ほどの通りです。それから、いわゆる原口さんの意見がありましたけれども、そのいわゆる、分科会はこの産技連の中に所属するという方向で議論を進めていってよろしいでしょうか？よろしいでしたら、拍手をお願いします。

(一同拍手→了承)

で、先ほどちょっと棚上げにしましたけれども、今、これだけ情報をこの場で共有したわけですから、もう一度、もう一度という言い方がアレですけども、少し、どこの部門に所属するかということをお諮りしたいと思うんですね。

で、それはこの場で手を挙げてどうってことではなくって、たぶんメール上になると思いますけれども、もう一度集約をさせて、それを一回お戻ししてですね、で少なくとも今年中にはですね、いわゆるそういう手続きを済ませていきたいというふうに思っています。ちょっとあのはつきり、時期的には申し上げられないんですが、そういう方向で是非進めさせていただきたいとは思いますが、よろしゅうございますかね？

(拍手)

はい、ありがとうございます。

えー、すみません。ちょっとつたない進行役で申し訳ございませんでしたけれども、そういうようなことで、実は、進めて参りますので、よろしく願いいたします。

それでは、センター長さんに議事をお返しします。



・議長

そういたしますと、本当にこの、分科会長さんには、大変難しい課題進行していただきまして、大変お世話になりました。じゃあ、最後の議事になると思います。

●次期開催県及び次年度開催県について

・議長

各ブロックにおきまして、事前に調整がされておることとありますので、次期開催県は東京都さん。それから、次年度開催県は熊本県さんになっておるようでございます。

そうしますとここです、それぞれの機関さんからですね、分科会のご案内をしていただきたいと思いますが、では最初です、東京都の産業技術研究所の阿保さんからお願いしたいと思います。

・東京都立産業技術研究センター（阿保氏）

すみません。事前に調整ということは初耳なんですけれども。あの、秋の研究発表会ですよね？私は千葉県さんだと思って全然安心していたんですけども。すみません、後日決定し次第、メーリングリストで連絡したいと思いますので、よろしいでしょうか？

・事務局

すみません。事務局の方には次回は東京都だというふうに話が届いておったんですけども、そういった事情であれば、すみません。

・議長

はい。じゃあそういたしますと、来年度の開催、これは熊本県さんで、こちらの方はよろしいございますか？

・熊本県工業技術センター（益田氏）

来年度につきましては、今色々ご討議された中で、部会名をどういう形にするのかとかいう課題が解決するという前提でございますけれども、熊本の開催については飲んでお受けしたいと思います。

今回の会議のようにある程度、立派に運営できるかという自信はございませんけれども、精一杯頑張りたいというふうに思っております。また来年、熊本は熊本城築城400年という祭りもございまして、全国の知事会も同じ7月頃に熊本で開催されるというふうに聞いております。そういうこともございますので、皆さん、楽しみに来ていただければというふうに思っています。以上でございます。

（拍手）

・議長

はい、ありがとうございます。そういたしますと、東京都さんはじゃあ、今しばらくご検討いただくということで、熊本県さんご案内ありがとうございます。

●その他

・議長

もう一点、その他とありますけれども、事務局の方から何かありましたら、よろしくお願いたします。

・事務局

特にございません。

・議長

はい。じゃあそういたしますと、以上を持ちまして本日の議題、全て終了ということになります。本当に本日の会議はですね、皆様のご協力によりまして、比較的スムーズに議事も運んだのかなあと思っております。

つたない進行でありましたけれども、これで議長の役目を終了させていただきます。本当にありがとうございました。

（拍手）

<以上、議事終了。>

---

文責：鳥取県商工労働部産業技術センター 研究企画室 産業デザイン担当 研究員 横地義照

連絡先：tel 0857-38-6208 e-mail yok@pref.tottori.jp

<議事録の外部利用、改編については逐次お問い合わせ下さい。>

平成18年7月26日 第一稿作成